

© ai ueda



# 第九 特別演奏会 2022



©山本倫子

◆2022年12月17日 土 17時00分 横浜みなとみらいホール  
(第383回横浜定期演奏会)

◆2022年12月18日 日 14時00分 サントリーホール

指揮: 太田 弦

ソプラノ: 盛田麻央 アルト: 杉山由紀 テノール: 樋口達哉 バリトン: 黒田祐貴

合唱: 東京音楽大学 (12/17) / 日本フィルハーモニー協会合唱団 (12/18)

ベートーヴェン: 《エグモント》序曲 ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》

発売中!  
良いお席は  
お早めに

◆2022年12月22日 木 19時00分 サントリーホール

◆2022年12月23日 金 19時00分 東京芸術劇場

◆2022年12月24日 土 14時30分 横浜みなとみらいホール

◆2022年12月25日 日 14時00分 東京芸術劇場

◆2022年12月27日 火 19時00分 東京芸術劇場

指揮: 小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

オルガン: 石丸由佳 ソプラノ: 小川葉奈 (12/22-24) / 市原 愛 (12/25,27)

アルト: 山下牧子 テノール: 錦織 健 (12/22-24) / 笛田博昭 (12/25,27)

バリトン: 大沼 徹 (12/22,23) / 青戸 知 (12/24) / 青山 貴 (12/25,27)

合唱: 東京音楽大学 (12/22,23) / 武蔵野合唱団 (12/24) / 日本フィルハーモニー協会合唱団 (12/25,27)

J.S. バッハ (M. デュリュフレ編曲): カンタータ第22番 BWV22 より 第5曲「慈しみもて我らを死なせ」

J.S. バッハ: パストラール BWV590 より II. アルマンド、トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》

(以上3曲オルガン独奏)

S ¥9,000 A ¥7,500 B ¥7,000 C ¥6,000 Ys (25歳以下) ¥3,500 Gs (65歳以上)(12/17除く) ¥6,000

【お申込】日本フィル・サービスセンター

eチケット: www.japanphil.or.jp TEL: 03-5378-5911 (平日 11~17時)



人、音楽、自然—日本フィルのテーマです。

JAPAN  
PHILHARMONIC  
ORCHESTRA

—創立指揮者 渡邊 暁雄—

日本フィルハーモニー交響楽団  
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第380回

# 横浜定期演奏会

380th YOKOHAMA Subscription Concert

2022年9月22日(木) 午後7時開演

神奈川県民ホール

7:00pm September 22nd (Thu.), 2022, at Kanagawa Kenmin Hall



横浜音祭り 2022 パートナー事業



YOKOHAMA  
OTOMATSURI

主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞、tvk、横浜アーツフェスティバル実行委員会

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会



文化庁





## 2022年シーズン開幕ご挨拶

2022年シーズンの開幕でございます。

新型コロナウイルスの猛威に翻弄され、なかなか日常を取り戻せない日々ですが、感染症対策を徹底して来た効果も浸透し、クラシック演奏会は安全との信頼が徐々に定着しつつあるように思います。2020年初頭の長期間にわたる演奏会自粛のあと実感した、“生の演奏の素晴らしさ”。この感激を大切に、クラシック音楽の奥深い、探究心をくすぐられるような楽しい世界へ皆様と共に進んでいきたいと思っております。

2023年に50周年を迎える横浜定期演奏会は〈横浜カルチュラル・ワンダーランド〉をコンセプトに、横浜国立大学教授の小宮正安さんと共に、クラシック音楽の様々な楽しみ方を発信してまいります。

ピエタリ・インキネンは首席指揮者としてのファイナル・シーズン。「ベートーヴェン・ツィクルス」のフィナーレ《第九》は力のこもった演奏となるでしょう。それから次期首席指揮者のカーチン・ウォン、桂冠名誉指揮者の小林研一郎という鉄板の布陣、そして日本の音楽界を支える指揮者たちと共に皆様のお越しをお待ちしております。

桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフとはなんとしても日本に紹介したい名曲の数々を計画しておりますが、モスクワに家族とともに居を構えるマエストロ、来日の壁は益々高まっているように感じています。

今シーズンも通常に戻れない状況での幕開けとなりましたが、本日も来場いただきましたこと心より感謝申し上げます。演奏家にとって大きな励みとなります。

舞台と客席の音楽通しての“心の交流”を大切に、温かい演奏会をつくりあげていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

日本フィルハーモニー交響楽団  
理事長 平井俊邦

### 感染防止にご協力をお願いいたします

●スタッフは不織布マスクを正しく着用します。また、小声で対応させていただきます。●入場時の手指消毒、手洗い、検温をお願いいたします。●ホール内ではマスク（不織布など効果の確かなもの）を正しく着用し、周囲のお客様への配慮をお願いいたします。●開演前はなるべくお席でお過ごしください。また時差退場のご協力をお願いいたします。●会場ロビーでの食事はお控えください。（ホール内は飲食禁止です）●ブラボー等の掛け声はお控えください。ホール内では大声での会話を避けるようご協力をお願いいたします。●出演者へのプレゼント（お手紙・お花などを含む）、面会、楽屋入り、出待ち等はお控えください。●チケットご購入者と演奏会ご来場者のお名前が異なる場合は、ご来場者のご住所、お名前、電話番号を弊社までお知らせください。●万が一感染者が発生した場合など、必要に応じて保健所等の公的機関へお客様のお名前と連絡先を提供する可能性がございます。●新型コロナウイルス接触アプリ(COCONA)等通知アプリの利用をお勧めいたします。

## 「<sup>かな</sup>神の哀しみから<sup>かな</sup>人間の悲しみへ」

プログラム後半に演奏される、チャイコフスキーの交響曲第6番を意識したタイトルだ。この曲の副題、日本では「悲愴」と訳されるが、元々は「Pathétique」であり、キリスト教と深いつながりのある「Passion（情熱／受難）」と深い関係がある。ところが、当の宗教の力が薄れていった19世紀、自らの身にこの問題を背負ったチャイコフスキーの魂の叫びとはどのようなものだったのか？「炎のコバケン」こと小林のタクトと、周防のヴァイオリン独奏を通じ、その答えを探る。

## Programs

チャイコフスキー：

### ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35 (約33分)

Pyotr TCHAIKOVSKY: Concerto for Violin and Orchestra in D-major, op.35

—— 休憩 (20分) Intermission ——

チャイコフスキー：

### 交響曲第6番《悲愴》ロ短調 op.74 (約46分)

Pyotr TCHAIKOVSKY: Symphony No.6 "Pathétique" in b-minor, op.74

指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

Conductor: KOBAYASHI Ken-ichiro, Honorary Conductor Laureate

ヴァイオリン：周防亮介

Violin: SUHO Ryosuke

コンサートマスター：木野雅之 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: KINO Masayuki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：菊地知也 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KIKUCHI Tomoya, JPO Solo Violoncello

## 指揮：小林研一郎

[桂冠名誉指揮者]



“炎のコバケン”の愛称で親しまれる日本を代表する指揮者。東京藝術大学作曲科、及び指揮科の両科を卒業。1974年第1回ブタペスト国際指揮者コンクール第一位、及び特別賞を受賞。2002年プラハの春音楽祭では東洋人初のオープニング「わが祖国」を指揮して万来の拍手を浴びた。

これまでにハンガリー国立フィル、チェコ・フィル、アーネム・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、フランス国立放送フィル、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管、ロンドン・フィル、ハンガリー放送響、N響、読響、日本フィル、都響等の名立たるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。

ハンガリー政府よりハンガリー国大十字功労勲章(同国で最高位)等、国内では旭日中綬章、文化庁長官表彰、恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。

2005年、社会貢献を目的としたオーケストラ「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立、以来全国にて活動を続けている。

CD、DVDはオクタヴィア・レコードより多数リリース。著書に『指揮者のひとりごと』(日本図書協会選定図書)等がある。

現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィル・名古屋フィル・群響桂冠指揮者、読売日響特別客演指揮者、九響名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授、ローム ミュージック ファンデーション評議員等を務める。

オフィシャル・ホームページ：<http://www.it-japan.co.jp/kobaken/>

## ヴァイオリン：周防亮介



1995年京都に生まれ、7歳よりヴァイオリンを始める。2016年ヘンリック・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール入賞及び審査員特別賞を受賞。その他にも日本音楽コンクールや東京音楽コンクール、ダヴィッド・オイストラフ国際ヴァイオリンコンクール、クロスター・シェンタール国際ヴァイオリンコンクールなど、数々のコンクールで優勝や入賞の実績を持つ。2015年「第25回出光音楽賞」、2016年「第25回青山音楽新人賞」を受賞。

12歳で京都市交響楽団との共演を皮切りに、パリ管弦楽団、フランス国立管弦楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、パリ国立歌劇場管弦楽団、ボズナンフィルハーモニック管弦楽団、サンクトペテルブルク国立アカデミー管弦楽団、シュトゥットガルト室内管弦楽団、プラハ室内管弦楽団、アマデウスポーランド放送室内管弦楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団など、数多くの国内外オーケストラと共演。また15歳で初リサイタルをおこない、清水和音や江口玲、上田晴子など第一線で活躍するピアニストと共演を重ねる。2021年5月にはオクタヴィア・レコードより初のコンチェルト・アルバム『チャイコフスキー&メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲』をリリース。

これまでに岡本智紗子、岩谷悠子、小栗まち絵、大谷康子、原田幸一郎、神尾真由子、マキシム・ヴェンゲロフの各氏に師事し、東京音楽大学特別特待奨学生としてアーティスト・ディプロマコースを修了。現在は江副記念リクルート財団奨学生として、メニューイン国際音楽アカデミーにて研鑽を積んでいる。使用楽器はNPO法人イエローエンジェルより貸与されている、1678年製ニコロ・アマティ。



## 今日のコンサートの聴きどころは？

ヨーロッパ文化史研究家小宮正安さんの  
面白解説をお楽しみください！

18時20分  
より  
大ホール内  
にて♪



小宮正安(こみや まさやす) ●ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学(大学院都市イノベーション学府・都市科学部)教授。著書に『コンスタンツェ・モーツァルト〈悪妻〉伝説の虚実』(講談社選書メチエ)、『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』(山川出版社)、『音楽史 影の仕掛人』『オーケストラの文明史 ヨーロッパ 3000年の夢』(春秋社)、『モーツァルトを「造った」男 ケツヘルと同時代のウィーン』(講談社現代新書)、『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』(集英社新書)など多数。『ウィーンフィル・ニューイヤーコンサート』でのコメンテーターをはじめテレビやラジオへの出演、『東京・春・音楽祭』でのナビゲーターなど、幅広い分野で活躍している。



## ～ チャイコフスキー ～

本日は、オール・チャイコフスキープログラムだ。というわけで、まずはチャイコフスキーの生涯と作品を手短に振り返ってみよう。

ピョートル・チャイコフスキー (1840-1893) は、現在でこそ、ロシア音楽の代表的作曲家と見なされている。だが彼が音楽の道を志した当時、ロシアのいわゆる「クラシック音楽の世界」の傾向としては、西ヨーロッパの音楽をそのまま輸入するか、民謡等に基づいた民族特色濃い音楽を追求するか、という2つの潮流が互いに並び立っていた。そんな状況を変えた典型が、チャイコフスキーだった。

チャイコフスキーは、西ヨーロッパの高度な作曲音楽を身につけたうえで、スラブ民族の血が通った情感豊かな旋律や、暗い色彩の管弦楽法で、彼にしかなしえない世界を創り上げた。それもこれも、内面が要求するものを忠実に吐露することが、作曲家としての自らの使命であると考えていたからである。もちろんそうした新たな試みは、時に激しい毀誉褒貶に晒された。そしてそれは、きわめて繊細な感覚の持ち主であったチャイコフスキーを追い詰め、傷つけると同時に、彼にしかなしえない作風を打ち立てる情熱を掻き立てる源泉ともなった。

こうしてチャイコフスキーは、交響曲・バレエ・歌劇・室内楽曲・歌曲などあらゆる分野にわたって、数々の傑作を残してゆくのである。

## ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35

ロマン派のヴァイオリン協奏曲のなかでも、もっとも多くの人々に愛されている傑作で、チャイコフスキーの代表作ともいえる1曲。作曲者の複雑な胸のうちを映し出すかのような哀愁に満ちた美しい叙情や、難しいテクニックと絢爛たる華やかさにあふれた独奏ヴァイオリンの活躍が、奏者も聴き手も魅了する。しかしこの曲もまた、初演当初は激しい毀誉褒貶に晒された。

1878年に完成したこの曲は元々、ヴァイオリンの巨匠であったアウアーに捧げられるはずだったが、「演奏不可能な至難の曲」として拒絶される。その後、1881年にこちらも名ヴァイオリニストだったブロッキーが、リヒター指揮/ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と初演にこぎつけたものの、リヒターもウィーン・フィルの楽団員もこの曲を好まず、ウィーンの大批評家ハンスリックにも酷評を下された。

その後しばらくは、演奏しても世間に取り上げられない不遇の時期が続いたが、ブロッキーが各地で再演を繰り返したお蔭で、次第に聴衆の理解を得るようになる。そしてついにアウアーもみずからのレパートリーにこの曲を加え、ようやく、人気の高い名ヴァイオリン協奏曲として不動の地位を得るようになった。なお当作品は、この曲を世界に紹介しつづけたブロッキーに捧げられている。

## 第1楽章：アレグロ・モデラート～モデラート・アッサイ

壮大だが憂愁を帯びた管弦楽の響きにのせて、独奏ヴァイオリンが時には堂々と、時には華やかに奏でられる。

## 第2楽章：カンツォネッタ

弱音器をつけた独奏ヴァイオリンのためいきのような音色が、悲哀に満ちた楽想を深める。

## 第3楽章：アレグロ・ヴィヴァティッシモ

ロシアの民族舞曲トレパークのリズムに乗せて、独奏ヴァイオリンとオーケストラがともに弾けるように躍動し、力強いクライマックスへと上り詰めてゆく。

**楽器編成** 独奏ヴァイオリン、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽5部。

## 交響曲第6番《悲愴》 短調 op.74

チャイコフスキーが死を迎えた年、1893年に書かれ、初演されている。すでに「交響曲第4番」「第5番」の成功で全ヨーロッパに名声を上げていた彼自身が、「私の一生で一番良い作だ」とたびたび語ったと伝えられている自信作となった。

なお《悲愴》という標題自体、チャイコフスキーの同意のもとで生まれたことが、最近の研究では分かっている。初演の際のポスターにこそこの標題は記されていないが、楽譜出版に際しては標題を付けてほしい、とチャイコフスキー自身が希望する手紙が残されているほど。

ただしその一方で、何かある特定の物語や聴き方をチャイコフスキーが切望していたわけでもなさそうだ。じっさい彼は甥のダヴィドフへの手紙に「(この交響曲には) 標題性があるが、それは誰にも謎であるべきで、想像できる人に想像させよう。この標題性はまったく主観的なものだ。私は旅行中にこれを作曲しながら幾度となく泣いた・・・」と書き送っている。

なおチャイコフスキーは、この曲が初演された直後の11月6日に急逝してしまう。そのあけない人生の幕切れについては毒殺説もささやかれ、当交響曲の暗く神秘的な幕切れと相まって、多くの憶測を呼び起こすことになった。

## 第1楽章：アダージョーアレグロ・ノン・トロポ

コントラバスが最弱音で出す虚ろな低音の上に、ファゴットがつぶやくように表れる陰鬱な導入部と、中間部に表れる威嚇するような激烈さの対象が印象的。楽章全体に、恐れと悲しみ、また何かを追い求めるような切ない憧れが溢れる。

## 第2楽章：アレグロ・コン・グラツィア

4分の5拍子という珍しいテンポを用いた、舞曲風の楽章。軽快な中にも、不安定な儚さが付きまとっている。

## 第3楽章：アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ

スケルツォと行進曲を合わせた活発で動きのある楽章。チャイコフスキーらしい華やかな音楽のオンパレードだが、異常なまでのハイテンションがかえって不安感をあおる。

## 第4楽章：アダージョーラメントーソ

一般の交響曲なら壮麗で快活に締めくくられるべき終楽章が、この上ない哀切さ、嘆き、苦悩で満たされている。悲しみや絶望を描きつくした幕切れに、チャイコフスキーは何を託したのか。

**楽器編成** フルート3 (ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2 (バス・クラリネット持替1)、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、銅鑼、弦楽5部。





歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



## 「悲愴」の謎

本日の演奏会の後半に演奏される、チャイコフスキーの交響曲第6番。題名は日本語で「悲愴」だが、原題は“Pathétique”となる。ちなみに、チャイコフスキーも尊敬していた西洋音楽の大先輩ベートーヴェンの作った有名なピアノ・ソナタ第8番『悲愴』の原題も、“Pathétique”だ。

“Pathétique”そのものはフランス語で、深い悲しみや痛みを指す言葉だが、それだけにとどまらない点が厄介だ。というものの、この言葉は元々、「情熱」や「受難」を意味するギリシア語の“pathos”（パトス）から来ているから。

「情熱」と「受難」ではかなり違うような気がするが、果たしてそうか。自らの信念に基づいて情熱をもって事に当たれば、必ず周囲の反対や敵視に会う、つまり受難に晒されるの。その考え方がキリスト教においては、人間を罪から救い出そうとする神の情熱が、神のひとり子であるイエスを受難にあわせ、十字架上で死なせた、という信仰になった。

なおヨーロッパでは19世紀に入り、これまで宗教をはじめとする権威に抑圧されてきた個々の人間が自由を得るようになると、教会の権威も弱まってゆく。だがそれでも、キリスト教に根差した人生観や世界観は、形を変えて生き残った。ベートーヴェンなどはその典型で、自らの情熱と、それゆえの様々な受難を通じ、宗教に代わる希望のありかを、新たな時代の担い手である市民階級に示そうとした。

だが19世紀も末に差し掛かると、当の市民の活躍によって生み出された社会問題をはじめとする様々な矛盾の中で、希望に満ちた成長神話にも影が差し始める。そうした時代の中を生き、創作上の葛藤だけでなく、当時は犯罪と見なされていた同性愛（正確にはバイセクシャル）の傾向に苦悩したのが、チャイコフスキーだった。

だからこそ、“Pathétique”と名付けられた彼の最後の交響曲は、意味深長である。ちなみにキリスト教の教義では、イエスの受難の哀しみの先に希望に満ちた復活が控えているが、この作品の場合はどうだろう。漆黒の悲しみの先にはさらなる闇が広がっているのか、あるいはまったく新たな光が待っているのか、それとも…?



「悲愴の歌曲 (Dathetic songs)」, エイケンズ画, 1881年。チャイコフスキーと同時代のアメリカで描かれた絵。悲しみに沈みつつ音楽に没頭する3人の人物だが、中央の女性に光が射しこんでいる点が、様々な解釈を可能にする。



## 日本フィル横浜定期演奏会 50周年 〈横浜カルチャー・ワンダーランド〉

もっと楽しく、もっと面白く、より深く! 〈横浜カルチャー・ワンダーランド〉をコンセプトに、歴史、美術、文学… 文化と音楽が響き合う新しいコンサートの楽しみ方を発信いたします。コンセプト監修に横浜国立大学教授の小宮正安氏を迎え、知れば知るほど楽しい時間をお届けしてまいります。

### 関連講座

朝日カルチャーセンター 横浜教室 (横浜駅東口ルミネ 8階)

《第2弾》 2022年10月10日 (月・祝) 15:00~16:30

### 『社会文化史から読み解く「芸術家の憧れ」の交響楽』

チャイコフスキー『くるみ割り人形』(11月定期)、ラフマニノフ『交響曲第2番』(1月定期)を中心に

講師: 横浜国立大学教授 小宮正安 / 日本フィル・クラリネット奏者 照沼夢輝

音楽家が、「音楽の出来る職人」から「音楽を司る芸術家」へと変貌を遂げた19世紀から20世紀。そうした状況の中であって、様々な憧れ(またその裏返しとしての苦悩)を宿した作品がたくさん生まれました。今回はその中から、チャイコフスキーの『くるみ割り人形』、ラフマニノフの『交響曲第2番』を中心に取り上げ、社会文化史の視点からそのメッセージを探ります。またこれらに具わった様々な音楽的な仕掛けを、日本フィル・クラリネット奏者の照沼夢輝の演奏やインタビューも交えてお届けします。(小宮講師・記)

第3弾は

2023年1月28日(土)開講。  
講座のほか、イベントを計画中!

※申込みは朝日カルチャーセンターへ TEL:045-453-1122

Next YOKOHAMA

## 第381回 横浜定期演奏会 ~ダンスが拓く新たな世界~

2022年10月1日(土) 17:00 神奈川県民ホール

指揮: 藤岡幸夫

ヴァイオリン: 高木凜々子

ヴィヴァルディ: ヴァイオリン協奏曲集《四季》

ベートーヴェン: 交響曲第7番

© Shin Yamagishi

© Naoya Yamaguchi



藤岡幸夫

高木凜々子

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P 完売 Ys (25歳以下) ¥1,500

※ Ys席はS席以外から選べます。

※車いすおよび障害者手帳をお持ちの方は、サービスセンターへお問い合わせください。



■寄付の御礼

一般のコロナ禍による楽団存続の危機に際し、多くの企業、団体、個人の皆様からご理解とご支援をいただいておりますことに、心より感謝いたします。この度三菱 UFJ フィナンシャル・グループより公益財団法人オーケストラ連盟を通じて、多額のご寄付を頂きました。心より御礼申し上げます。

■就任のお知らせ

2019年より日本フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターとして活躍していた田野倉雅秋が2022年9月よりソロ・コンサートマスターに就任いたしました。9月から新たな体制でより充実した演奏をお届けしてまいります。

■新入団員のお知らせ

2022年9月1日付でヴァイオリン・セクションに伊藤太郎が入団いたしました。今後の活躍にご期待ください。

■テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組!『Welcome クラシック』BS朝日 毎週水曜日 22:54~23:00 (第3週、第4週は再放送)。登場するのは首席指揮者ピエタリ・インキネン&正指揮者山田和樹。ぜひご覧ください!

■日本フィル e チケット♪が新システムに切り替わります。《2022年秋開始予定》

既に「日本フィル e チケット♪」をご利用いただいている方には、メールにてご案内をお送りいたします。手順に沿ってお手続きをお願いいたします。

■11月第382回横浜定期演奏会 出演者変更のお知らせ

11月に来日を予定している桂冠指揮者兼芸術顧問のアレクサンドル・ラザレフ氏については、ロシアとウクライナで起きている諸情勢と、家族とともにモスクワに居を構える同氏の状況も考慮し、楽団と同氏の双方で協議を重ねた結果、今回の来日も残念ながら断念することとなりました。

【2022年11月18日(金)、19日(土) 第745回東京定期演奏会】

指揮者・プログラムを変更いたします。代替の内容については現在調整中です。

【2022年11月26日(土) 第382回横浜定期演奏会】

指揮は角田鋼亮氏にご出演いただきます。プログラムに変更はございません。

何卒、ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様の都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・席数・席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただけます様ご協力をお願いいたします。
- ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

7月の横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。心より御礼申し上げます。

◇匿名1名

敬称略・五十音順

日本フィル・サービスセンター  
〒166-0011  
東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日11時~17時)

FAX: 03-5378-6161 (24時間)

e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食: 下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(6名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

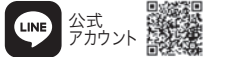
オールデイダイニング「カフェ トスカ」/フランス料理「クイーン・アリス」/ラウンジ「ソマーハウス」

日本料理「大志満」/中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

- 創立指揮者/渡邊曉雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッホラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
- 首席指揮者/ピエタリ・インキネン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO (芸術顧問) /広上淳一
- 首席客演指揮者/カーチュン・ウォン



<p>ソロ・コンサートマスター 扇谷泰朋 木野雅之 田野倉雅秋</p> <p>アシスタント・コンサートマスター 千葉清加</p> <p>第1ヴァイオリン □伊藤太郎 太田麻衣 九鬼明子 齋藤政和 榎本 渚 竹歳夏鈴 谷崎大起 田村昭博 中谷郁子 西村優子 平井幸子 本田純一</p> <p>第2ヴァイオリン 遠藤直子 大貫聖子 岡田紗弓 加藤祐一</p> <p>○神尾あずさ 川口 貴 佐藤駿一郎 末廣紗弓 豊田早織 町田 匡 山田千秋</p> <p>ヴァイオリン ☆安達真理 小俣由佳 小中澤基道 見仁井かおり 高橋智史 中川裕美子 中溝とも子 松澤雅奈</p>	<p>ソロ・チェロ 菊地知也</p> <p>チェロ 石崎美雨 伊堂寺 聡 江原 望 大澤哲弥 久保公人 山田智樹 横山 桂</p> <p>コントラバス 鈴木優介 ◎高山智仁 成澤美紀 ○宮坂典幸 山口雅之</p> <p>フルート 齋藤光晴 難波 薫 ◎真鍋恵子</p> <p>オーボエ 佐竹真登 ◎杉原由希子 ○松岡裕雅</p> <p>クラリネット ◎伊藤寛隆 ○楠木 慶 照沼夢輝 堂面宏起</p> <p>ファゴット 大内秀介 ◎鈴木一志 ○田吉佑久子 中川日出鷹</p> <p>ホルン 伊藤 舜 宇田紀夫 ◎信末碩才 原川翔太郎 ☆丸山 勉 村中美菜</p>	<p>ソロ・トランペット オッタビアーノ・クリストーフォリ</p> <p>トランペット 大西敏幸 中里州宏 中務朋子 星野 究</p> <p>トロンボーン 伊藤雄太 伊波 睦 ○岸良開城</p> <p>バス・トロンボーン 中根幹太</p> <p>テューバ 柳生和大</p> <p>ティンパニ ◎エリック・バケラ</p> <p>パーカッション 大河原 渉</p> <p>ハーブ 松井久子</p> <p>楽団長 中根幹太</p> <p>チーフステージマネージャー 阿部紋子</p> <p>ステージスタッフ 長橋健太 森田大翔</p> <p>チーフインスペクター 佐藤駿一郎</p> <p>インスペクター 宇田紀夫 鈴木優介</p> <p>ライブリアン 鬼頭さやか 杉本哲也</p> <p>◎首席奏者 ○副首席奏者 ☆客演首席奏者 □試用期間</p>	<p>理事長(代表理事) 平井俊邦</p> <p>副理事長(代表理事) 五味康昌</p> <p>常務理事(代表理事) 後藤朋俊</p> <p>常務理事(代表理事) 中根幹太</p> <p>常務理事(代表理事) 福井英次</p> <p>理事 石井啓一郎 遠藤 滋 佐々木経世 田村浩章 戸所邦弘 福本ともみ</p> <p>評議員会長 加藤丈夫</p> <p>評議員 青井 浩 安孫子 正 荒蒔康一郎 石塚邦雄 石村 等 稲垣 尚 内川清雄 大塚宣夫 海堀周造 梶浦卓一 河北博文 喜多崇介 木村恵司 久保田 隆 小林研一郎 島田精一 津田義久 西澤 豊 野間省伸 葉田順治 村上典吏子 山口多賀幸</p>	<p>監事 上條貞夫</p> <p>名誉顧問 熊谷直彦 島田晴雄 田邊 稔</p> <p>アドバイザリー・ボード 大島 剛 小野敏夫 小網忠明 後藤 茂 武田隆男 田邊 稔 溝口文雄</p> <p>コミュニケーション・ディレクター マイケル・スペンサー</p> <p>マネジメント・スタッフ 磯部一史 江原陽子 及川ひろか 小川紗智子 斎藤千穂 佐藤玲子 菅原 光 高木裕子 高木雄司 高木 洋 高倉理実 田沢 烈 田川和男 堂阪俊子 豊極尚代 齋藤尚生 中川二郎 永田健一 中務幸彦 奈切敏郎 橋本 洋 畑井紀代子 平賀法子 福島喜裕 松本克己 松本伸二 三谷昭平 三本克郎 宮武良平 三好明子 森 茂 山下進三 山科淑子 山本辰夫 渡辺哲雄</p>	<p>団友 青柳哲夫 青山 均 赤堀泰江 浅井俊雄 浅見浩司 新井豊治 石井啓一郎 伊藤恒男 江藤彌子 遠藤 功 遠藤剛史 大石 修 大川内 弘 大味 修 寛 美知子 金本順子 蒲谷隆行 川口和宏 菊田秋一 吉川利幸 木村正伸 小林俊夫 小山 清 斎藤千穂 佐々木裕司 佐藤玲子 菅原 光 高木裕子 高木雄司 高木 洋 高倉理実 田沢 烈 田川和男 堂阪俊子 豊極尚代 齋藤尚生 中川二郎 永田健一 中務幸彦 奈切敏郎 橋本 洋 畑井紀代子 平賀法子 福島喜裕 松本克己 松本伸二 三谷昭平 三本克郎 宮武良平 三好明子 森 茂 山下進三 山科淑子 山本辰夫 渡辺哲雄</p>
--	---	--	---	--	--

(2022年9月1日現在)